



水・大地・空気を未来につなぐ

株式会社ミダック
[証券コード：6564]

2018年3月期 決算説明資料

① 会社概要

② 決算説明

③ 業界環境

④ 当社グループの強み・競争戦略

⑤ 企業価値向上に向けての取組

① 会社概要

② 決算説明

③ 業界環境

④ 当社グループの強み・競争戦略

⑤ 企業価値向上に向けての取組



社名：株式会社ミダック（MIDAC CO.,LTD.）
創業：1952年4月（昭和27年）
資本金：4億1,729万円
代表者：代表取締役社長 矢板橋一志
本社：静岡県浜松市東区有玉南町2163番地
従業員：206名（2018年3月末：グループ連結）
子会社：株式会社ミダックはまな（浜松市西区）
株式会社三晃（愛知県春日井市）

《事業内容》

- 産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬・処分
- 一般廃棄物の収集運搬・処分

《保有施設》

事業所

- 富士宮事業所（焼却）
- 本社事業所（水処理・収集運搬設備）
- 呉松事業所（破碎）
- 豊橋事業所（混練）
- 関事業所（水処理）

営業所

- 東京営業所（神奈川県川崎市）
- 富士宮営業所（静岡県富士宮市）
- 本社・一般営業所（静岡県浜松市）
- 名古屋営業所（愛知県名古屋市）

第5創業期 (2012年～現在)



- 関事業所 (水処理) の開設
- (株)三晃、(株)ミダックはまなを子会社化
- 名古屋証券取引所に上場

第3創業期 (1996年～2001年)



- 水・台地・空気の頭文字を取り、現社名 (ミダック) へ
- 豊橋事業所 (選別・混練) の開設

第1創業期 (1952年～1983年)



- 小島清掃社として創業
- し尿の汲み取りが主な業務

第4創業期 (2002年～2011年)



- 富士宮事業所 (焼却) の操業を開始
- 東京・名古屋営業所を開設し営業エリアを拡大

第2創業期 (1984年～1995年)



- 創業者の他界、二代目代表の就任
- 呉松事業所 (破碎・埋立) の開設

①-3 会社概要 (拠点一覧)



①-4 会社概要 (廃棄物処理の工程)



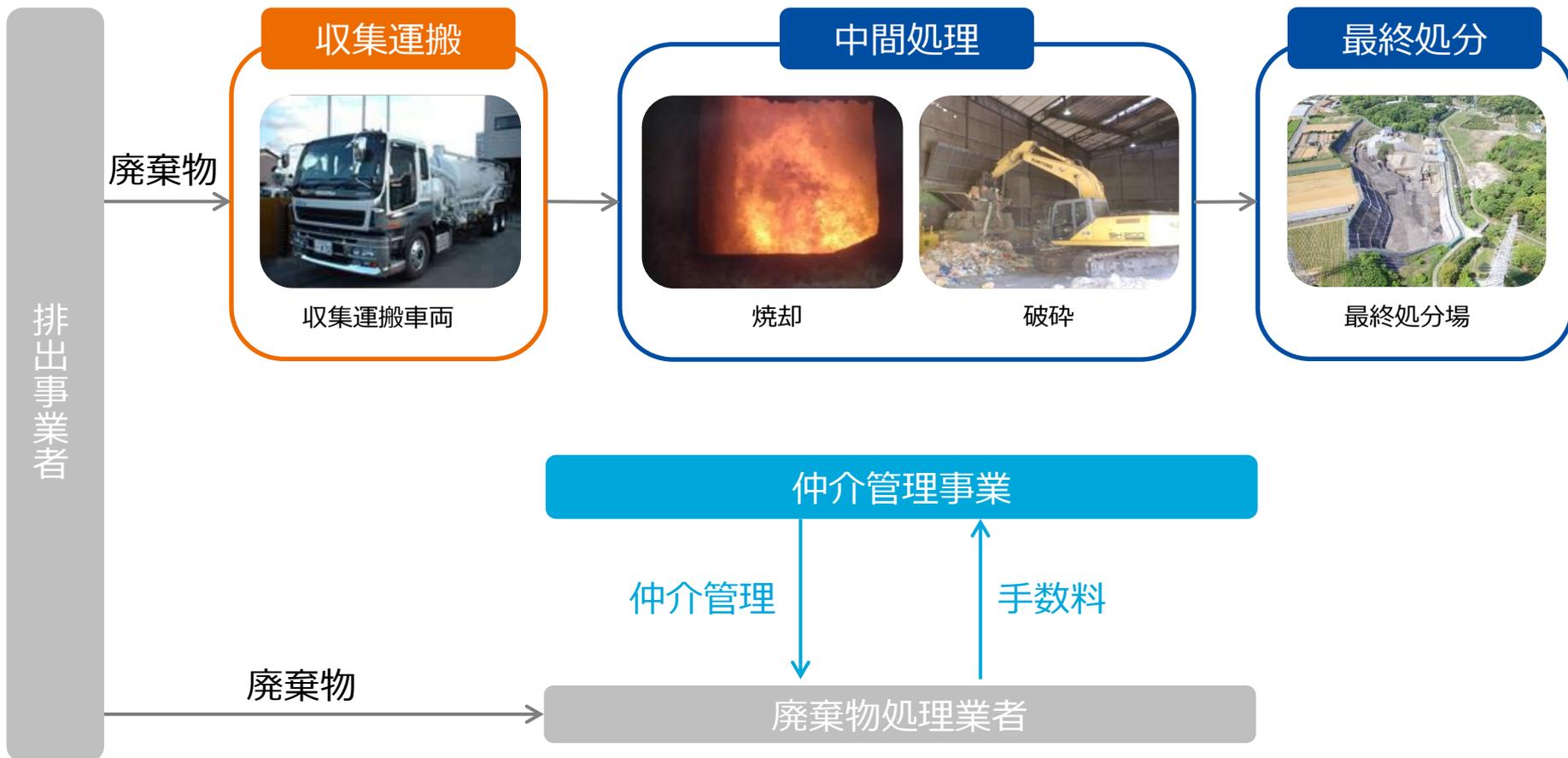
収集運搬事業



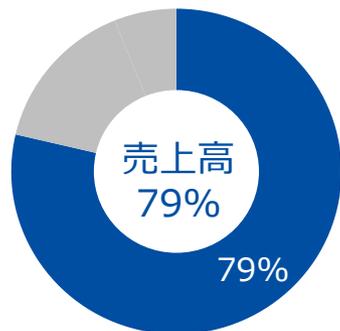
廃棄物処分事業



仲介管理事業



<廃棄物処分手業>



- 自社施設による廃棄物処理サービスを提供
- 廃棄物処理サービスとは、中間処理と最終処分から構成
- 当グループの中核事業であり、多種多様な廃棄物を処理できる体制を構築

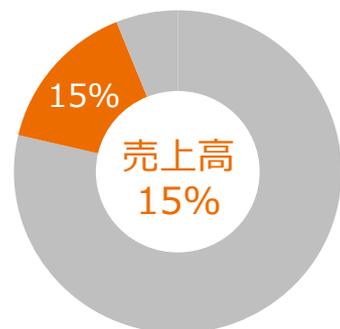


関事業所 (水処理)



呉松事業所 (破碎)

<収集運搬事業>



- 廃棄物の収集運搬サービスを提供
- 固形物や廃液まで多様な廃棄物を運搬できるよう、各種車両を完備
- 付随して、清掃業務も受注

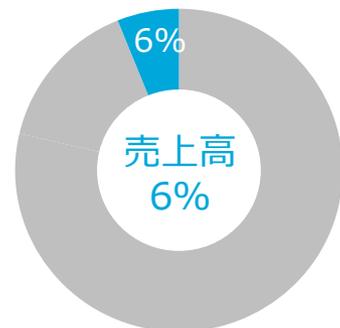


収集運搬車両



清掃業務

<仲介管理事業>



- 自社以外の処理業者へ顧客の紹介サービスを提供
- 自社処理が困難な廃棄物や、自社の商圏以外の廃棄物に対して、適正な廃棄物処理を提案



富士宮営業所



東京営業所

注:売上高には内部売上高を含む

- 廃棄物の燃焼から得られた排熱を利用し、ボイラータービン発電も行う環境に配慮した施設
- 富士宮市から一般廃棄物処理業の許可を取得し、安定的な受注を実現

所在地	静岡県富士宮市山宮3507番地の20
開設	2002年12月
処理能力	132t/日
事業内容	一般廃棄物、産業廃棄物、特別管理産業廃棄物の焼却処理 他



<廃棄物の処理フロー>

【廃棄物の受入】



【焼却】



【残さ（燃えがら）の発生】



【外部への搬出】



ミダックはまな等

- 地元地域である浜松で一貫処理体制を維持するため、子会社化
- 安定型最終処分場と管理型最終処分場を運営

浜名湖クリーンセンター

所在	静岡県浜松市西区篠原町
埋立容積	442,846m ³
事業内容	安定型 最終処分
特徴	性状的に安定している安定型廃棄物のみを埋立

遠州クリーンセンター

所在	静岡県浜松市西区大山町
埋立容積	410,575m ³
事業内容	管理型 最終処分
特徴	安定型に比べ幅広い廃棄物の埋立が可能



① 会社概要

② 決算説明

③ 業界環境

④ 当社グループの強み・成長戦略

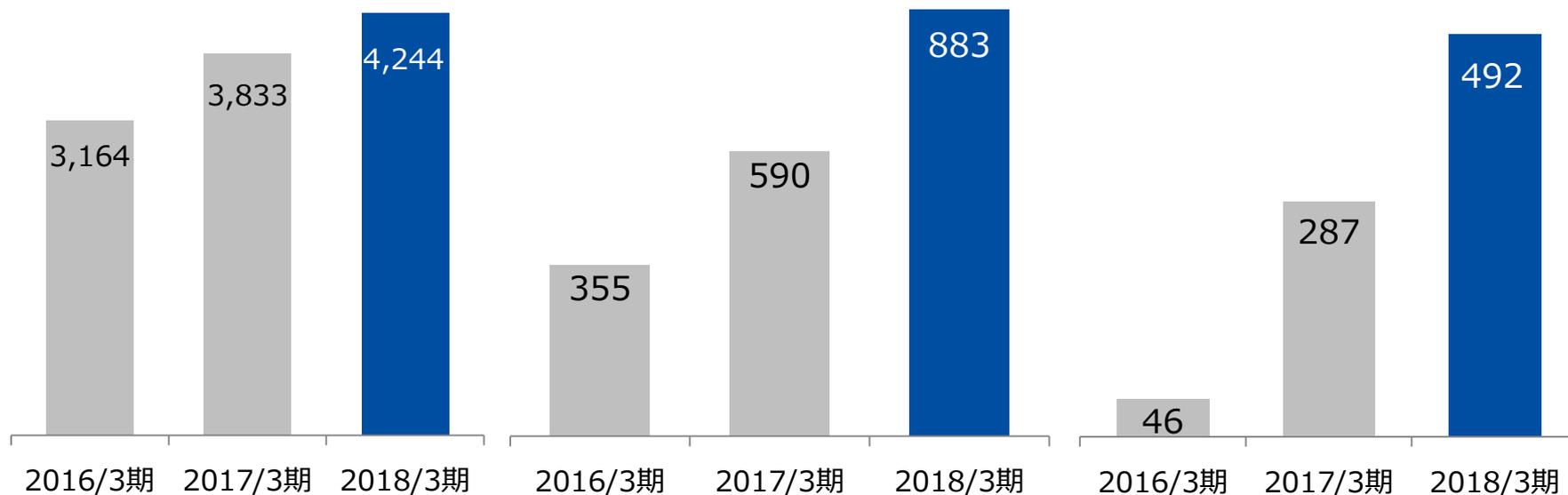
⑤ 企業価値向上に向けての取組

- 売上高：**4,244百万円** (対前年+10.7%)
- 営業利益：**883百万円** (対前年+49.5%)
- 当期純利益^(注)：**492百万円** (対前年+71.5%)

<売上高>

<営業利益>

<当期純利益>^(注)



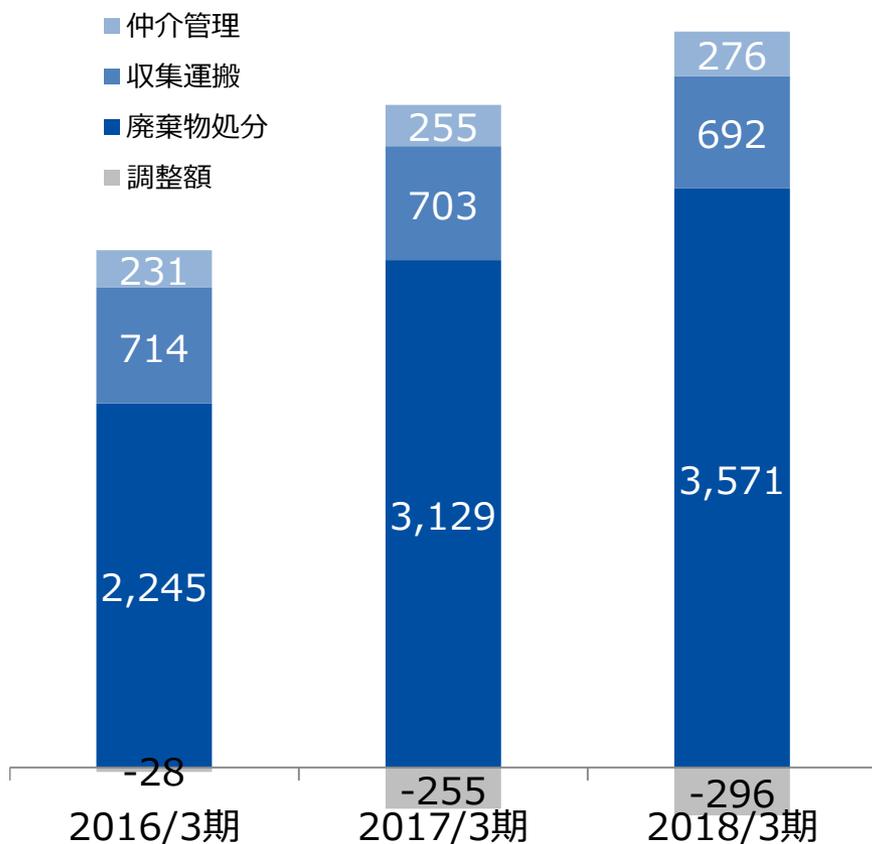
注:親会社株主に帰属する当期純利益

②-2 決算説明 (セグメント別分析)

- 廃棄物処分手業において、最終処分場を運営するミダックはまなの業績が好調であり増収・増益を達成
- 収集運搬事業・仲介管理事業も売上高・利益ともに堅調に推移

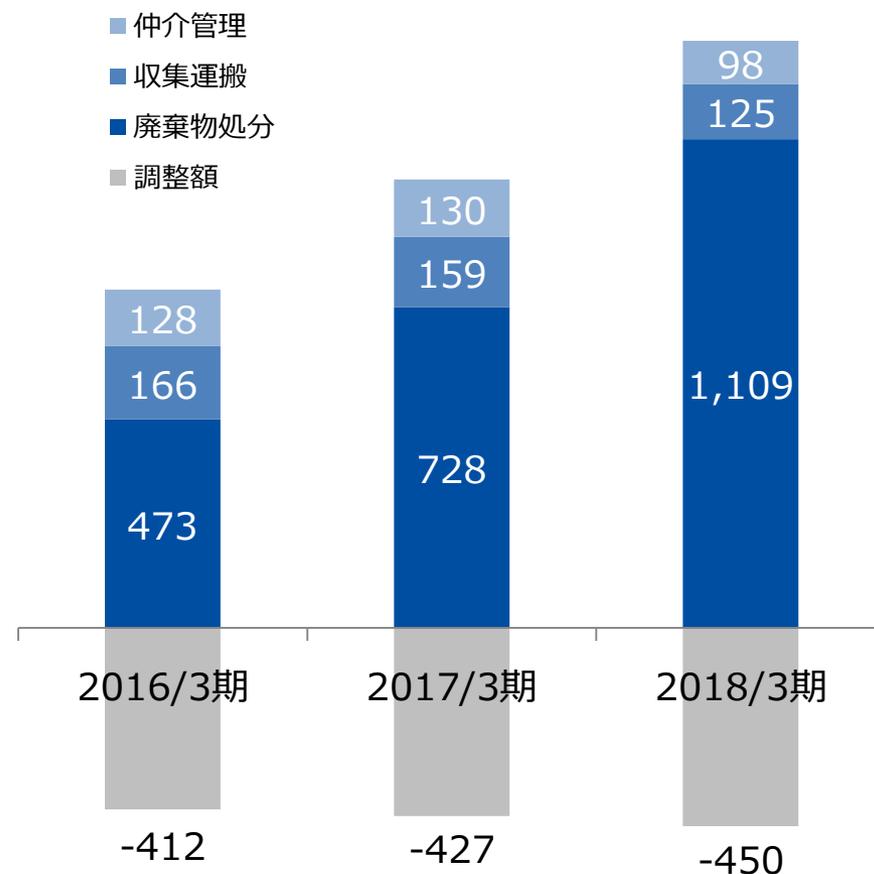
セグメント別売上高

(単位：百万円)



セグメント利益

(単位：百万円)



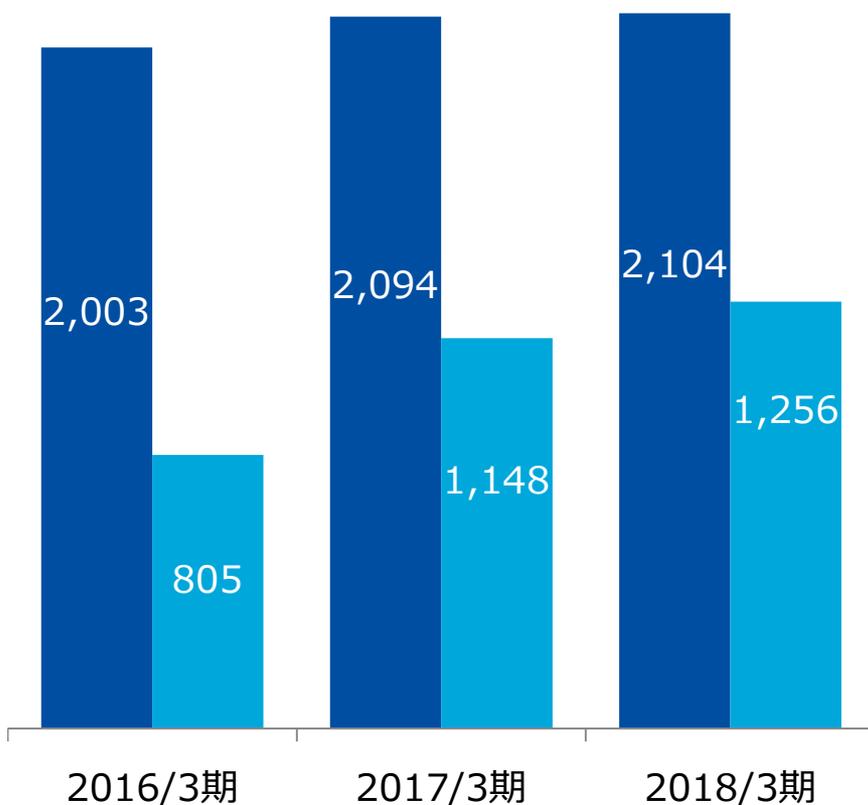
②-3 決算説明 (費用分析)

- 売上原価は主に最終処分場維持管理引当金繰入額の増加により上昇するも、売上高原価率は改善
- 販管費は営業管理手数料や人件費の増加により上昇

売上原価・販売費一般管理費

(単位：百万円)

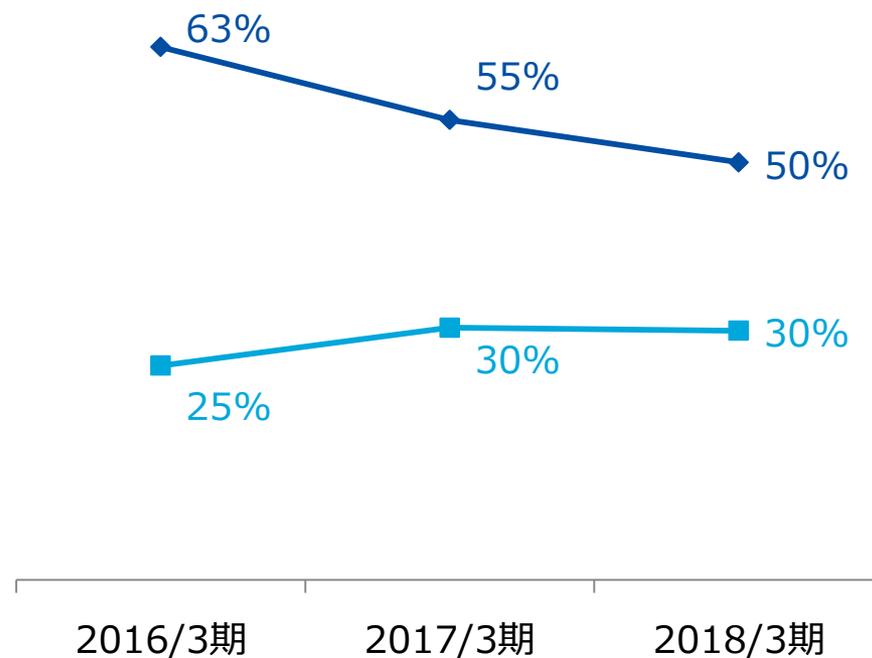
■ 売上原価 ■ 販管費



対売上高比率

◆ 売上高原価率

■ 売上高販管費率



②-4 決算説明 (業績予想との比較)

- 親会社のミダックにおいて、富士宮事業所の焼却や本社事業所の水処理が好調に推移
- 子会社のミダックはまなにおいて、スポット案件の受注が好調に推移

(単位：百万円)

	2018/3期	2018/3期	構成比	予想比
	予想	実績		
売上高	4,119	4,244	100%	3%
売上原価	2,052	2,104	50%	3%
売上総利益	2,067	2,139	50%	3%
販売費・一般管理費	1,264	1,256	30%	-1%
営業利益	803	883	21%	10%
営業外収益	22	24	—	—
営業外費用	51	67	—	—
経常利益	773	839	20%	9%
特別利益	0	0	—	—
特別損失	0	0	—	—
税引前当期純利益	773	839	20%	9%
法人税等	366	347	—	—
当期純利益 ^(注)	407	492	12%	21%

注：親会社株主に帰属する当期純利益

②-5 決算説明 (ミダックはまな)

- スポット案件の受注が好調であったことにより増収増益を達成
- 2018/3期も安定して高収益体制を維持

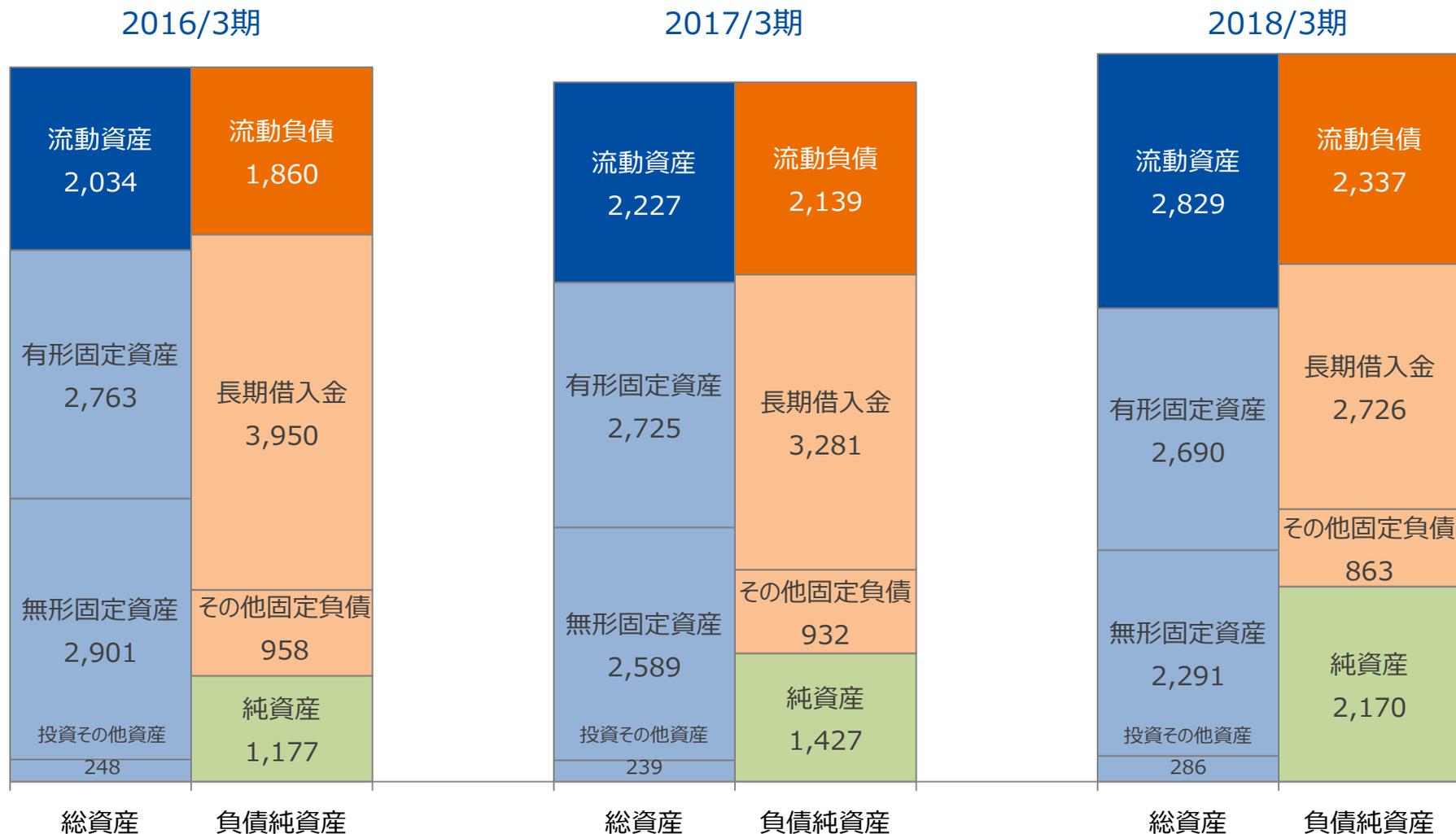
(単位：百万円)

	2017/3期 実績	2018/3期 実績	2018/3期	
			構成比	前期比
売上高	790	1,250	100%	58%
売上原価	209	230	18%	10%
売上総利益	580	1,019	82%	76%
販売費・一般管理費	108	154	12%	43%
営業利益	471	864	69%	83%
営業外収益	17	5	—	—
営業外費用	9	8	—	—
経常利益	480	861	69%	79%
特別利益	30	11	—	—
特別損失	16	0	—	—
税引前当期純利益	494	872	70%	77%
法人税等	176	320	—	—
当期純利益	317	552	44%	74%

②-6 決算説明 (貸借対照表)

- 子会社のミダックはまな買収に伴う長期借入金は順調に返済
- 自己資本比率は15%→18%→27%と改善

(単位：百万円)



②-7 決算説明 (CF計算書)



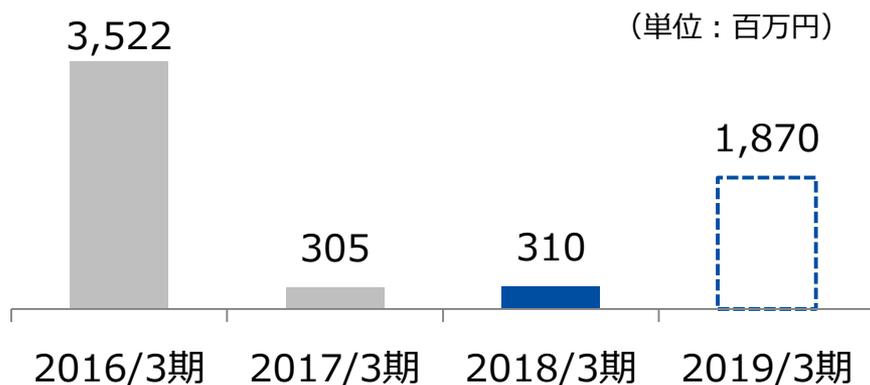
(単位：百万円)

	2016/3期	2017/3期	2018/3期
営業CF	354	1,057	996
税金等調整前当期純利益	109	590	839
減価償却費	212	341	351
のれん償却額	26	250	250
売上債権の増減額	△ 72	1	△ 112
法人税等の支払額	△ 26	△ 207	△ 429
その他	105	82	97
投資CF	△ 3,196	△ 268	△ 252
有形固定資産取得による支出	△ 132	△ 305	△ 254
子会社株式の取得による支出	△ 2,184	0	0
その他	△ 879	37	2
財務CF	3,363	△ 555	△ 315
長期借入による収入	3,648	0	150
長期借入金の返済による支出	△ 472	△ 520	△ 693
株式の発行による収入	0	0	281
その他	188	△ 35	△ 53
増減額	521	233	428
期首残高	719	1,241	1,475
期末残高	1,241	1,475	1,903

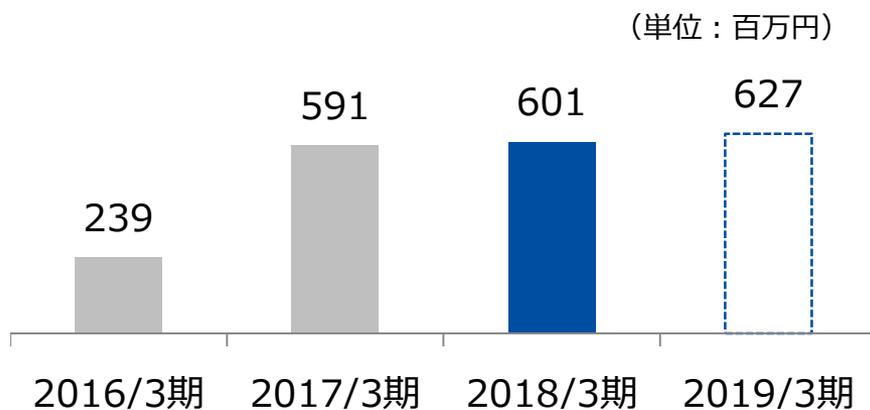
②-8 決算説明 (設備投資)

- 2018/3期の設備投資は310百万円、前年比1.4%増加
- 2019/3期は新規最終処分場への投資を計画しているため、金額は大幅に増加見込み

設備投資額



減価償却費+のれん償却費



来期の主な設備投資計画

事業所	投資額 (百万円)	投資額
新規最終処分場	1,518	平成34年4月以降に稼働を開始予定 (同時に償却も開始予定)
遠州クリーンセンター	101	最終処分場設備・運搬具
富士宮事業所	72	焼却設備
収集運搬	41	産業廃棄物収集運搬設備
収集運搬	26	一般廃棄物収集運搬設備
本社事業所	26	水処理設備

②-9 決算説明 (通期業績予想)

- 当期も引き続き安定した受注を目指すことにより堅調な売上高を予想
- 昇給などの影響や富士宮事業所の修繕費の増加を見込んだことにより減益と予想

(単位：百万円)

	2018/3期	2019/3期	構成比	前期比
	実績	予想		
売上高	4,244	4,208	100%	-1%
売上原価	2,104	2,149	51%	2%
売上総利益	2,139	2,059	49%	-4%
販売費・一般管理費	1,256	1,232	29%	-2%
営業利益	883	827	20%	-6%
営業外収益	24	2	—	—
営業外費用	67	46	—	—
経常利益	839	783	19%	-7%
特別利益	0	0	—	—
特別損失	0	0	—	—
税引前当期純利益	839	783	19%	-7%
法人税等	347	410	—	—
当期純利益 ^(注)	492	372	9%	-24%

注：親会社株主に帰属する当期純利益

① 会社概要

② 決算説明

③ 業界環境

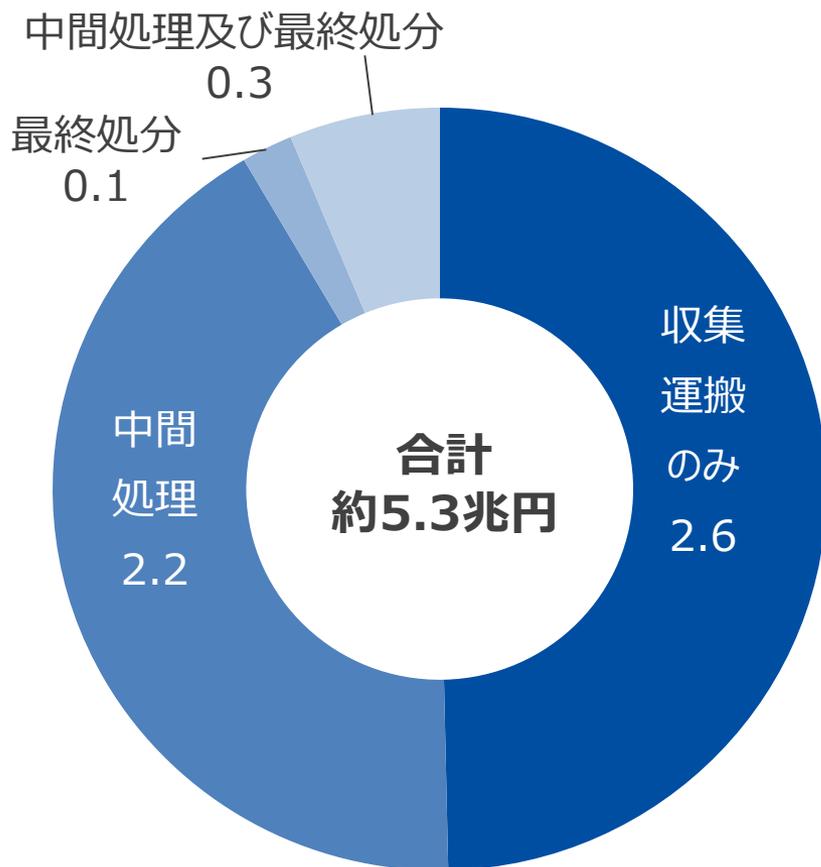
④ 当社グループの強み・成長戦略

⑤ 企業価値向上に向けての取組

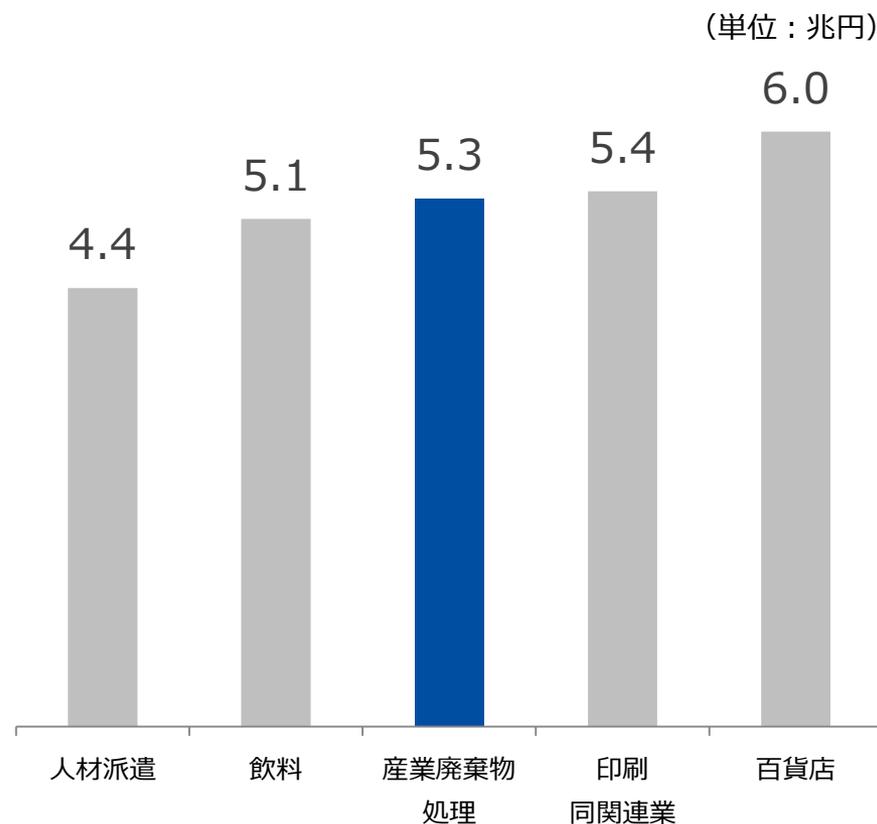
③-1 業界環境 (市場規模)

- 国内における産業廃棄物処理業界の推定市場規模は、約5.3兆円
- 飲料業界や印刷・関連業と同程度の市場規模

産業廃棄物処理業界の推定市場規模



他業界との市場規模の比較



出典:環境省「平成23年度産業廃棄物処理業実態調査業務報告書」

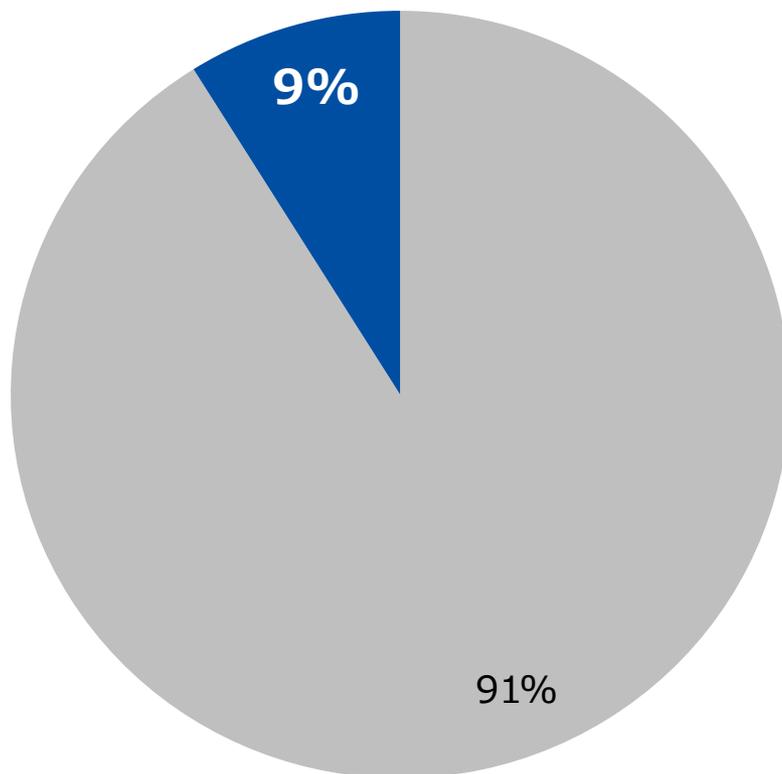
出典:(株)矢野経済研究所「人材ビジネスの現状と展望 2017年度版」(人材派遣)「2017年度版 飲料市場の現状と展望」(飲料)、環境省「平成23年度産業廃棄物処理業実態調査業務報告書」(廃棄物処理)、経済産業省「平成29年工業統計速報」(印刷・同関連業)、日本百貨店協会「平成29年12月全国百貨店売上高概況」(百貨店)

③-2 業界環境 (事業者数の割合)

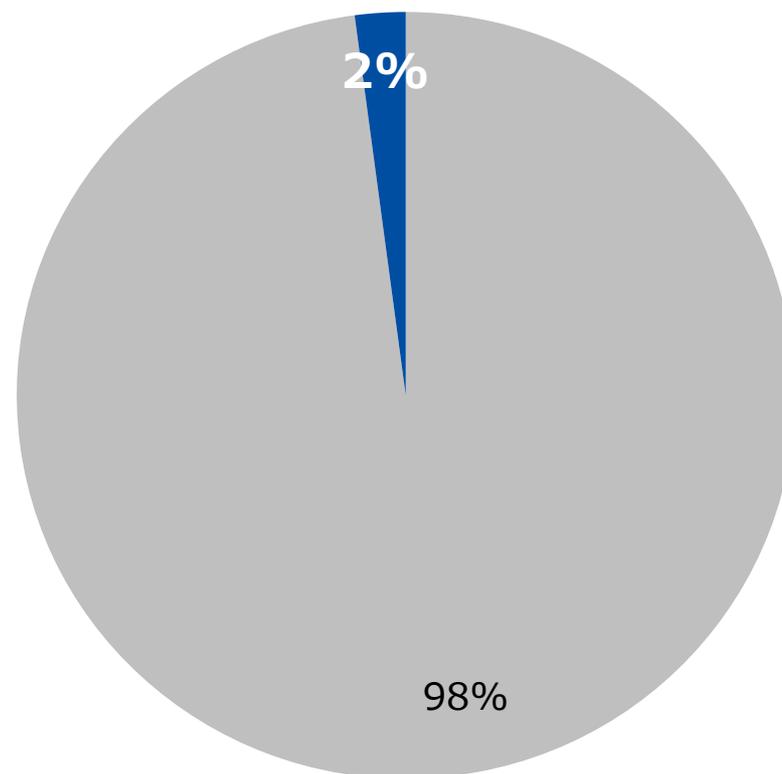
- 廃棄物処理業界において、主業者のうち、売上高10億円以上の事業者の割合は僅か約9%
- 従業員数が100人以上の事業者の割合も約2%であり、中小零細業者が多数を占める業界

注:産業廃棄物処理業の許可を保有している事業者のうち、産業廃棄物処理業を主業(売上高の割合が50%以上)とする事業者

— 売上高10億円以上の主業者が占める割合 — — 従業員100人以上の主業者が占める割合 —



出展:環境省「平成23年度産業廃棄物処理業実態調査業務報告書」、産業廃棄物処理業の振興方策に関する検討会「産業廃棄物処理業の振興方策に関する提言」



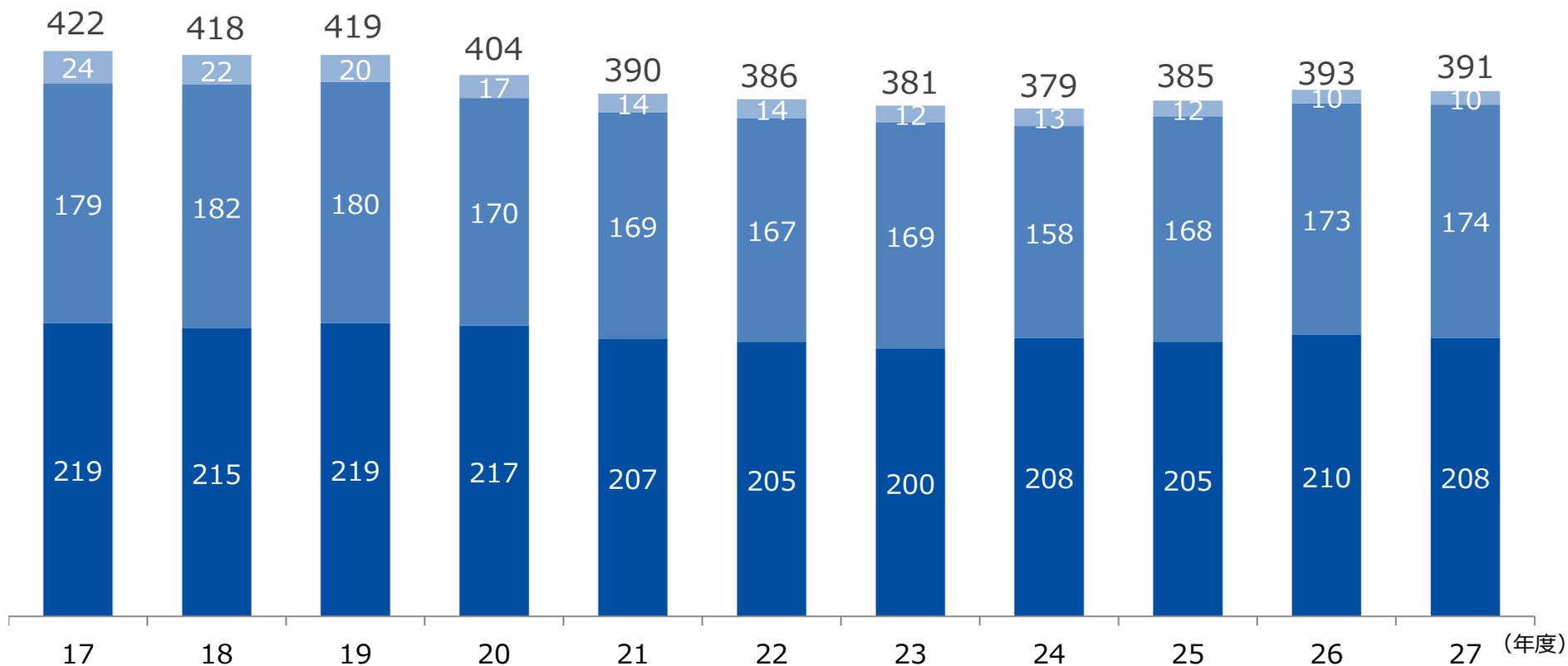
出展:環境省「平成23年度産業廃棄物処理業実態調査業務報告書」、産業廃棄物処理業の振興方策に関する検討会「産業廃棄物処理業の振興方策に関する提言」

③-3 業界環境 (産業廃棄物の総排出量)

- 産業廃棄物の総排出量は平成27年度で391百万トンであり、概ね横ばいで推移
- 今後においても、一定の廃棄物の排出が継続するものと予測

■ 最終処分量
■ 減量化量
■ 再生利用量

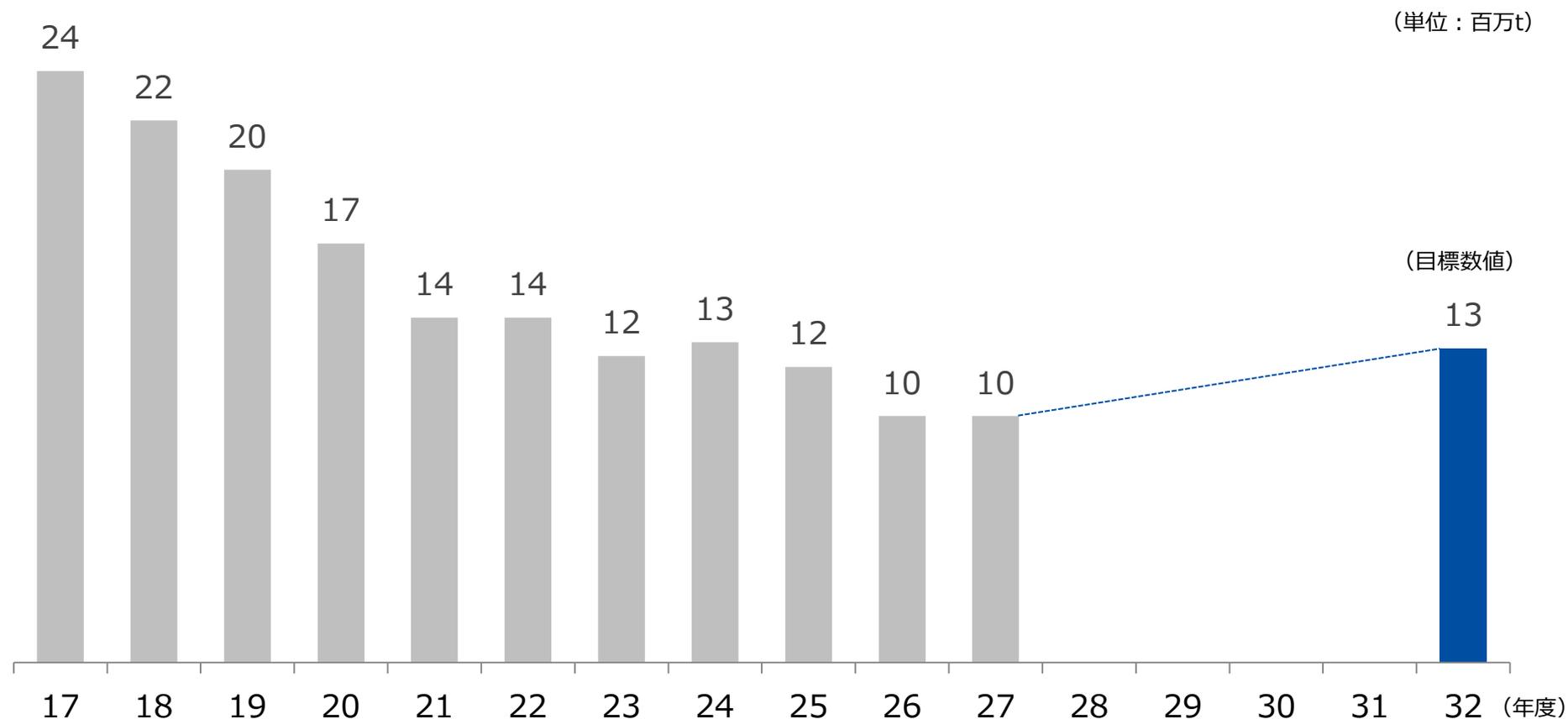
(単位：百万t)



出典：環境省「産業廃棄物の排出及び処理状況等（平成27年度実績）」

③-4 業界環境 (最終処分量の推移)

- 循環型社会形成推進基本計画では平成32年の最終処分量の目標数値を約13百万トンと設定
- 最終処分は今後も不可避免的に発生し、最終処分場は社会に必要不可欠な存在



出典：環境省「産業廃棄物の排出及び処理状況等（平成27年度実績）」、環境省「循環型社会形成推進基本計画（平成25年3月）」

③-5 業界環境 (処理施設数と最終処分場の残余量)

- 産業廃棄物処理施設数は概ね横ばい傾向にあるが、緩やかな減少傾向
- 最終処分場の残余量は新規の設置が進まず減少傾向

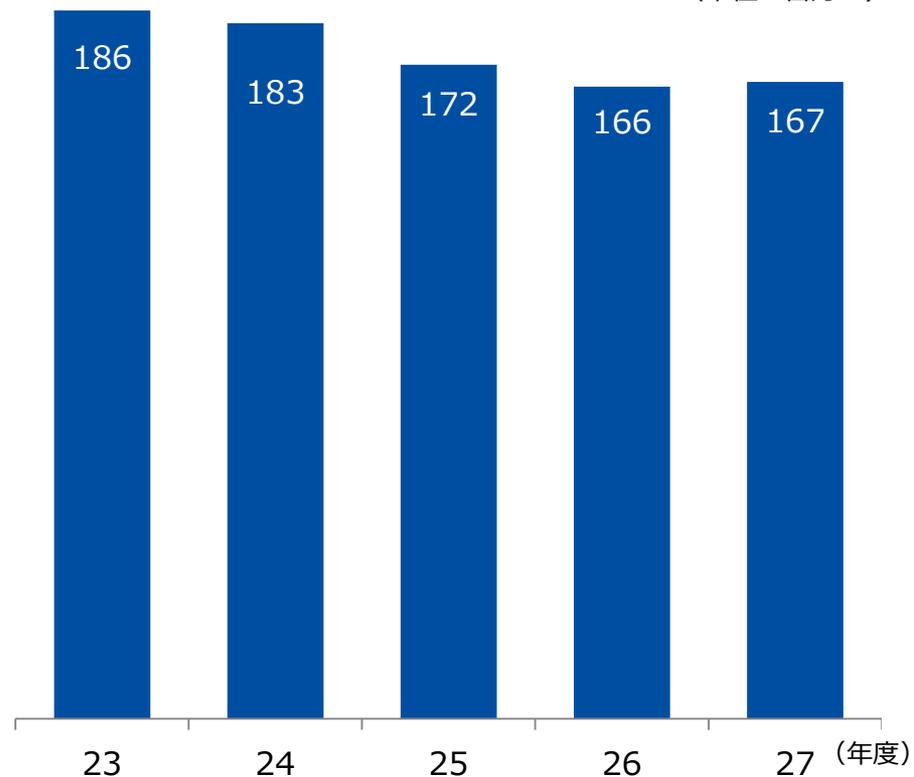
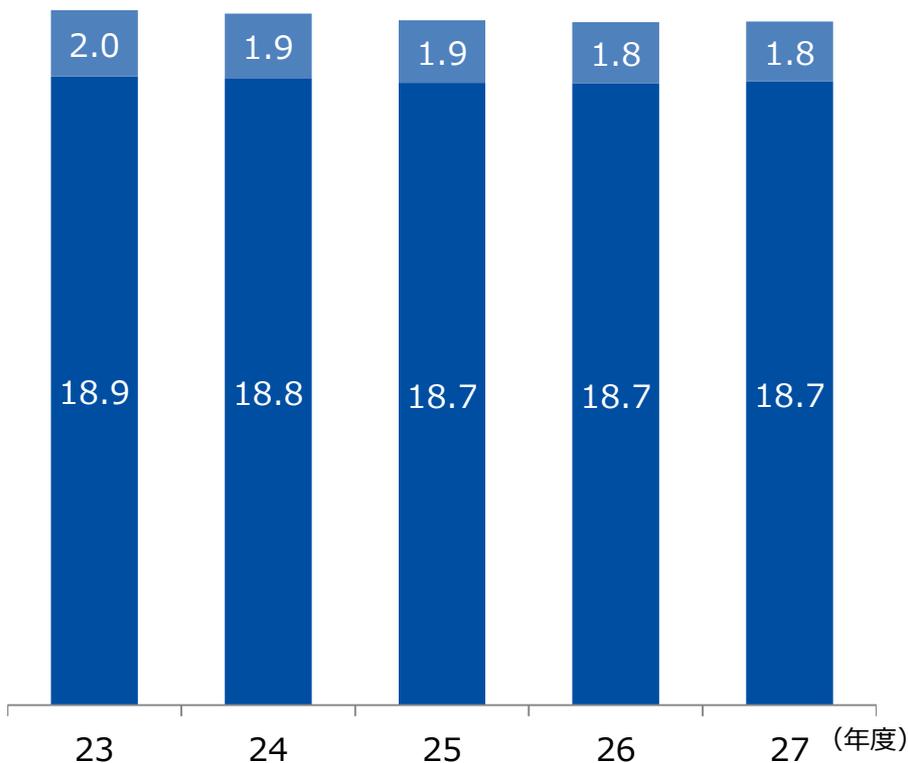
産業廃棄物処理施設件数の推移

最終処分場の残余量の推移

■ 最終処分場
■ 中間処理施設

(単位：千件)

(単位：百万㎡)



出典：環境省「産業廃棄物処理施設の設置、産業廃棄物処理業の許可等に関する状況（平成23年～27年実績）」

① 会社概要

② 決算説明

③ 業界環境

④ 当社グループの強み・成長戦略

⑤ 企業価値向上に向けての取組

④-1 当社グループの強み (一貫処理体制)

- 同業の多くが収集運搬業のみや中間処理業のみであるのに対し、当社グループは様々な設備を有することで、収集運搬から最終処分までを請け負う一貫とした処理体制を構築



- 排出事業者は安心して廃棄物を委託
- 廃棄物処理に係る外注費を内製化することで、コスト削減を実現

④-2 当社グループの強み (総合廃棄物処理企業)

- 様々な処理施設や許可を保有していることにより、幅広い顧客に対応が可能
- 特定の廃棄物や特定の業種に限定せず、総合廃棄物処理企業として確立



- 浜松市北区に新規管理型最終処分場の設置を計画
- 浜松市の条例手続が平成29年9月22日に終了し、設置許可申請が9月27日に同市に受理

施設概要

全体面積	約228,000m ²
埋立容量	約3,125,000m ³
稼働開始予定	平成34年4月以降
埋立予定期間	約30年
投資予定総額	約70億円



既存処分場との規模の比較

新規管理型
最終処分場
3,125,000m³
(東京ドーム約2.5杯分)

遠州
クリーンセンター
410,575m³

④-4 成長戦略 (未展開地域への進出)

- 太平洋ベルト近辺に中間処理施設及び最終処分場の設置候補地を選定
- 新規施設の展開については、自社での対応に限らず、積極的なM&Aなど柔軟かつスピーディーに対応

自社開発のノウハウ

- 地域住民との調整→許可取得→建設までのプロセスにおいてノウハウを蓄積
- 専門部署である開発事業部を設置

M&Aのノウハウ

- 廃棄物処理業界におけるM&Aのノウハウを蓄積



未展開地域への進出

ノウハウを用いた展開



① 会社概要

② 決算説明

③ 業界環境

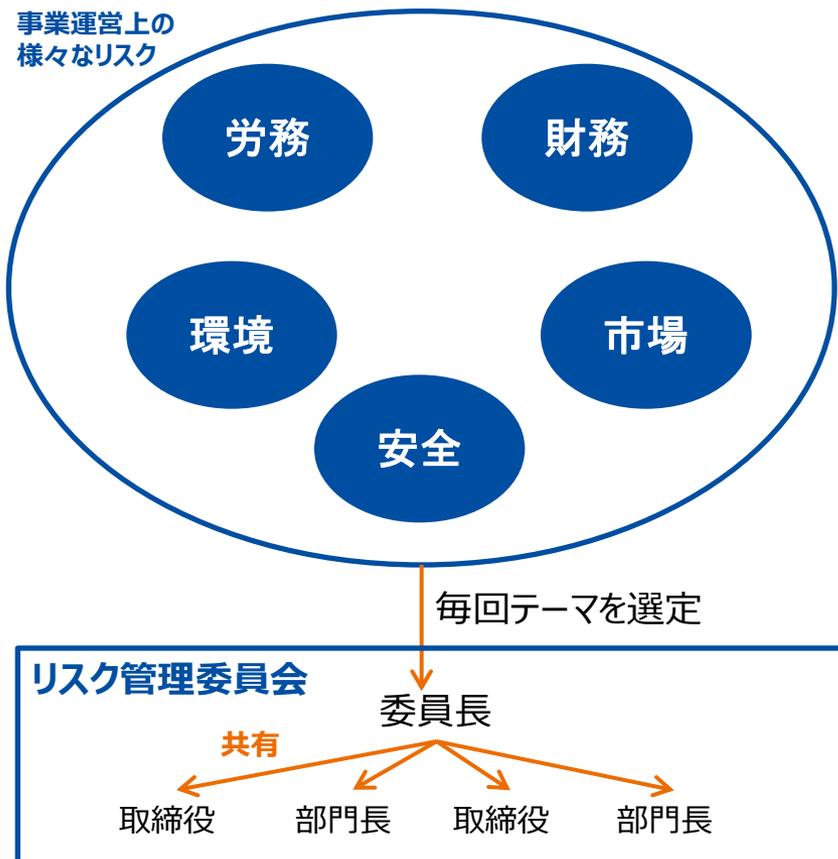
④ 当社グループの強み・成長戦略

⑤ 企業価値向上に向けての取組

⑤-1 企業価値向上に向けての取組

- 事業を遂行する上で生じる様々なリスクに対応するため、下記のような取組を実施

リスク管理委員会



コンプライアンスの徹底

判定委員会

協力関係にある廃棄物処理業者において、廃棄物の適正処理が確保されるよう、厳格な審査を実施

①書類調査

- 帝国データバンクの信用調査や日経テレコンの記事検索により状況を確認

②現地調査

- 当社独自のチェックリストを元にヒアリングし、現物確認した上で、法定項目等を確認

③委員会の審議

- 関係各部署の役職者が取引可否を審議

不適正処理を未然に防止

- 社員と家族がいつまでも安心して働くことができるよう、より良い職場環境を確保

プラチナくるみマークの認定取得

2015年8月に静岡県の企業では2番目（産業廃棄物処理業界では初）の**プラチナくるみマーク**を取得しました。



「プラチナくるみ認定制度」は、平成27年4月1日施行の改正次世代法により創設され、「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定（くるみ認定）を受けた企業のうち、より高い水準の取組みを行った企業が認定を受けられる制度です。

週に3日のノー残業 <月・水・金>

ミダックでは週に3日のノー残業デーを実施しています。そのため従業員の**毎月の平均残業時間は概ね20時間以下**となっています。

有給休暇の計画的付与

ミダックでは年次有給休暇の取得促進のため有給休暇の計画的付与を行っています。

ワークライフバランス企業の認定取得

2017年2月に**浜松市ワークライフバランス等推進事業所を認定取得**しました。



働きやすい職場環境づくりや女性活躍の推進を図るため、仕事と家庭（子育てや介護）、地域活動等との両立支援などのワーク・ライフ・バランスに取り組んでいる事業所を認証する制度です。

育児・介護を支援

ミダックでは育児や介護による休業について、その一部を有給化することにより、育児・介護を支援しています。

女性従業員支援

ミダックでは働く女性を応援するセミナーや勉強会を定期的に実施することによって、女性従業員がより働き易くなるよう職場の環境づくりに積極的に取り組んでいます。

⑤-3 企業価値向上に向けての取組

■ 地域社会との良好な関係を構築するため、また環境保全のため、当社グループは精力的に活動

ウェルカメクリーン作戦【5月】

毎年5月に浜松市指定天然記念物であるアカウミガメが安全に産卵できるよう遠州灘海岸清掃活動を行っています。



環境教育【9月】

毎年9月に有玉小学校（浜松市）を訪問し、ゴミに関する知識や分別・減量の大切さを楽しく学べるよう環境授業を行っています。



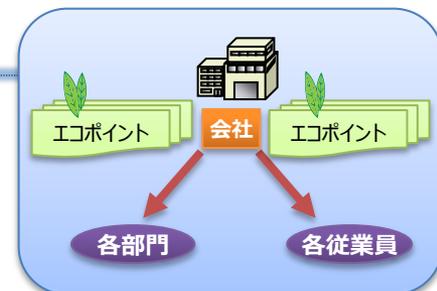
富士山エコツアー【8月】

毎年8月に浜松市剣道連盟の子供たちと共に、富士山のボランティア清掃活動を行っています。また24時間テレビ「富士山をきれいにするプロジェクト」や社員有志での富士登山清掃活動なども行っています。



エコポイント付与制度

各部門、各従業員の環境負荷低減活動に対してエコポイントを付与し現金として還元することにより、社員の積極的な環境活動を促進しています。



ミダック祭【9月】

毎年9月に地域住民の皆さんや従業員とその家族などを招いてミダック祭を開催しています。



エコキャップ回収運動【通年】

社員よりペットボトルキャップを回収し、NPO団体へ寄付しています。発展途上国の子供のワクチン購入にあてられます。

新潟県中越沖地震【07年7月】

新潟県中越沖地震での災害ゴミ処理支援を行いました。支援期間：07年8月31日～07年9月5日／支援範囲：柏崎市





水・大地・空気を未来につなぐ

経営理念

ミダックは、水と大地と空気そして人、すべてが共に栄えるかけがえのない地球を次の世代に美しく渡すために、その前線を担う環境創造集団としての社会的責任を自覚して、地球にやさしい廃棄物処理を追求してまいります。

株式会社ミダック